

# 令和5年度第3回鹿児島県再犯防止推進会議の開催結果について

## 1 開催日時

令和6年2月13日（火曜日） 午後2時30分から午後3時35分まで

## 2 開催場所

県社会福祉センター別館会議室

## 3 出席委員

宇都宮敦浩委員、西選子委員、秋野能廣委員、大山志保委員、中谷有貴委員、木村裕介委員、岩崎昌弘委員、深野木信委員、御牧忍委員、長野瑳や子委員、松下裕子委員、坂元葉子委員、古市幹朗委員、豊留満代委員、三浦一広委員、南靖子委員、永山忍氏（木藤真子委員の代理）、戸山実香氏（長久保剛委員の代理）

## 4 公開・非公開の別

公開

## 5 傍聴者数

なし

## 6 議事

- (1) 第2次鹿児島県再犯防止推進計画（案）について
- (2) その他

## 7 主な内容

### (1) 第2次鹿児島県再犯防止推進計画（案）について

#### 【事務局（青少年男女共同参画課長説明）】

- ・ 第2次鹿児島県再犯防止推進計画（案）について説明

#### 【質疑応答】

- ・ 宇都宮会長（鹿児島大学大学院臨床心理学研究科）  
パブリック・コメントがどれくらい反映されているかというのは非常に大きな点かと思う。  
高齢者の中には、支援を受けたくないという人も一定数含まれていて、再犯防止のために動機付けがない人を、どう動機付けるかというのは非常に難しい課題だと思うが、そのために何かできることということで、このように施策を追加していただいた。
- ・ 長野委員（県更生保護女性連盟）  
市町村との連携強化とあるが、市町村の再犯防止推進計画の作成状況はいかがか。  
また、第2次計画では推進していくということだが、遅れているところに対してはどのように考えているのか。
- ・ 事務局（青少年男女共同参画課）  
現時点で策定済みのところが8市町、現在策定中のところが8市町村と伺っている。  
今年度の新規事業である再犯防止推進ネットワーク会議で、市町村の担当者を集めた会

議を行い意見交換をしたが、まだ計画もしていないところもあり、今後、そういった意見交換等も踏まえながら、積極的に市町村での計画策定に向けた働き掛けをしていこうと思っている。

- ・ 長野委員（県更生保護女性連盟）  
8市町では少ないように思う。  
県では専門性をもって会議が行われているが、各市町村では再犯防止会議は行われているのか。計画書を作りましたと言って、実践が伴っていないのではないか。  
再犯を防ぐためにも、やはり地域が一番重要だと思うので、もう少しここあたりを強化してほしいと思う。
- ・ 事務局（青少年男女共同参画課）  
計画自体を策定した後、どのように実践していくかというところまで含めて取り組む必要があるため、より積極的な取組が行われるように、県の方でも情報提供や情報交換をしていきたいと思っている。
- ・ 中谷委員（鹿児島刑務所）  
パブリック・コメントの高齢者と障害者の支援について、県の方で推進員の養成講座を開催とあるが、具体的な数値目標を設定しているのか。  
また、どれぐらいの人数の推進員を養成していくのかなど、具体的な取組を聞かせていただきたい。
- ・ 関係課（社会福祉課）  
推進員については、高齢、障害、子育て、生活困窮など、様々な窓口がある中で、1つの窓口だけである程度導くことができるという趣旨で講座を開催している。  
具体的な数値目標がある訳ではないが、平成30年度から実施している事業であり、毎年、50名程度に受講していただいている状況で、昨年度までで242名の方々が修了している。  
各市町村で、相談窓口が一本である程度受け止めることができるという方々が増えてきているという意味では成果があると思っている。
- ・ 宇都宮会長（鹿児島大学大学院臨床心理学研究科）  
薬物関係もパブリック・コメントを受けて、数値等を修正したところである。  
大麻の件も触れられており、大麻取締法が一部改正され、検挙者は今後増えるかもしれないが、そういう意味でも重要な施策になってくるかと思う。
- ・ 岩崎委員（県保護司会連合会）  
自治体、関係団体などの方々のご理解ご協力をいただいて、2月1日現在での本県の保護司の充足率は94.2%と高い数字だと理解している。
- ・ 秋野委員（鹿児島保護観察所）  
岩崎委員が言われたとおり、94%の充足率となっていて、令和5年に70人程度が保護司になっている。  
これを維持すれば、充足率は上がっていくのではないかと思うが、保護司は定年制であるため、団塊の世代が定年を迎えガクッと減る可能性があり、現状の課題となっている。

- ・ 深野木委員（草牟田寮）

草牟田寮に入ってもらえる方は、行くあてがないから寮に来る訳であるが、そこで就労支援をして、働き口を見つけ、また、貯蓄をしてもらって自立した生活が出来るように住まいを一緒に探すというような支援をしている。

寮を出たからそれで支援は終わりではなくて、寮を出てから再犯をする可能性が出てくる訳なので、元寮生という方々には、ほぼ毎日のように電話をかけて、今の状況の確認などフォローアップの活動をやっている。
- ・ 宇都宮会長（鹿児島大学大学院臨床心理学研究科）

ここで述べている修正案も、この支援機関の団体に関する広報等があるが、やはりそこには、今のように絆が切れないような連携が図られているかどうかということが、大事になってくると思う。
- ・ 岩崎委員（県保護司会連合会）

成果指標について、国の場合は刑務所出所者の2年以内の再入所の数字等を出しているが、本県の場合は刑法犯の検挙者数の数字である。

先ほど、令和4年と令和5年の説明があり、令和5年は再犯者数がさらに増えているということであるが、刑法犯検挙者数について、令和3年までの20年ほどは順調に減ってきていたところ、令和4年、令和5年と増えたことを県警察ではどのように捉えているか。
- ・ 関係課（生活安全企画課）

刑法犯の認知件数自体は令和4年から増加に転じ、犯罪自体が増加したことも1つの要因かと考えられるが、再犯者数がなぜ増えたのかという明確なところは分析ができていない。
- ・ 岩崎委員（県保護司会連合会）

はっきりと分からないとなると、計画案については、この令和4年を基準にすべきじゃないかと思う。

目標というのは頑張らないといけないため、767人とすると、令和3年と似たような数字になってくる。それより、やはり令和4年を基準にして、令和10年の目標を635人としたい。
- ・ 宇都宮会長（鹿児島大学大学院臨床心理学研究科）

環境の大きな変化の影響で犯罪件数が変動するというのは、一般的な現象としてこれまでも言われていることで、その要因は無視できない。

コロナが収まった訳ではないが、ある程度人流が増えると街頭犯罪が増えるというのは、これまでの統計データでも明らかであり、検挙件数が300人近く増えているので、再犯者が約半数のパーセンテージでずっと経過していることから、それに引きずられる形で増えたということは数字上は説明できるものの、その細かい要因となると、やはり一つ一つケースを見ていくしかないと思う。
- ・ 中谷委員（鹿児島刑務所）

成果指標については、今回新たに出すという計画になるので、直近の数字が良いと考えている。

実際には20%減少を目指すというところ、その割合については変わらないので、確かに

設定の数字上は、目標は少ない方が良いと思うが、直近が単純に増えているということであれば、直近の数字を元にやるという考えもある。

- ・ 宇都宮会長（鹿児島大学大学院臨床心理学研究科）  
要はどこに物差しの起点を置くかという問題になってくるかと思うが、どちらもそれなりの理由があって、非常に決めがたいところがある。  
ここで変えてしまうと、この5年間、数字が減ってきたその頑張りは無視されてしまうのかという問題が出てくると思うし、一方で、これだけ再犯が増えたということが分かっているながら、成果指標を変えなかったのはどうしてなのかということも問われることになる。
- ・ 南委員（県男女共同参画局）  
再犯者数が増えたことについては、分析は細かくできていない状況があるが、世相を反映して、コロナ禍であった、そして困窮者が増えたということも一因であるならば、急激に改善していくとは非常に考えにくいということもあり、直近の令和5年度を基準に20%減ということで考えてみたらどうか。
- ・ 深野木委員（草牟田寮）  
直近といっても、この上がり方は普通の上がり方ではなく、3年、4年とそれほど増えていなかったものが、昨年1年間だけ増えているということを考えると、これがそのまま目標の基準になるというのは上げ過ぎではないかと思う。
- ・ 中谷委員（鹿児島刑務所）  
第1次計画に基づいた結果については、こういう形だということでは総括し公表等もされると思うので、特に新しいものを基準にしたとしても、新しい計画に基づいての数値ということであれば、そこで一区切りと思っている。  
数値的にも、平成29年の第1次計画よりは多くなるが、総括した場合に、コロナが5類になったということも要因としては説明できると思うので、パーセント自体は当然20%で変わらないことから、あくまで人数だけのところであれば、直近の数字の方が、より県民に対して正直だと思う。
- ・ 宇都宮会長（鹿児島大学大学院臨床心理学研究科）  
この5年間はコロナの影響があり、かなり特殊な5年間だったということは、ある程度は言えるのではないかと。  
これまでの成果を無視する訳ではなく、一旦区切りをつけて総括をした上で、次の第2次計画における犯罪の動向として一番新鮮なのは、最後のこの令和5年の数値ということでは言えると思うので、新たに示された20%目標でまた仕切り直すと。  
これからの計画については、この最新の数値に基づいて再犯計画をまた進めていくということにさせていただけたらと思うが、よろしいか。

## (2) その他

### 【事務局（青少年男女共同参画課）】

- ・ 委員による検討結果を踏まえ、第2次鹿児島県再犯防止推進計画における再犯防止等に関する施策の成果指標は令和5年の数値を基準として変更することについて確認
- ・ 第2次鹿児島県再犯防止推進計画策定のスケジュールについて説明